

# ホテル学校だより

ホテル学校歳時記（No.15）

## ホテルを育む里山の自然に親しむ ホテルの里の山歩きイベント開催！



平成 29 年 10 月 14 日（土）鳥川ホテルの里で鳥川ホテル保存会主催の「ホテルの里の山歩きイベント」が開催されました。ホテルを育む水の源である森林について、山歩きを通じてより多くの方に親しんでもらうことを目的として開催されている恒例イベントです。

前日から雨が降り続いていたため開催が心配されましたが、当日の朝には雨が上がり無事実施することができました。今年度は従来の山歩きに加えて、ホテル学校周辺を散策しながら観察や自然遊びをする「自然観察コース」と、鳥川の山歩きコースを一周する「チャレンジトレランコース」を新設。より広い世代が楽しめるイベントとなりました。



各コースに分かれて出発

地元住民が各グループに同行し、道中の湧水群やトヨタミナシ（詳細裏面）石仏など様々な鳥川の名所も紹介しながら歩いていきます。

山歩きでは上の方に登っていくと霧が一面にかかっており、展望はきかなかったものの別の世界に迷い込んでしまったかのような不思議な気分。霧の中から現

れたトレランコースの参加者が駆け抜けていくと、「頑張れー！」と声援が送られました。

ゴール後のお楽しみは恒例の鳥川特製の猪汁のふるまいです。温かい猪汁をみんなで楽しみながら各コースでの体験を語り合いました。

これからは秋の紅葉や、冬の綺麗な空気での展望が楽しめます。ぜひホテルの里の山歩きにお越しください。



霧の中の幻想的な山歩き

## サナギになる場所が 少なくなり苦労します

4 月下旬。ゲンジボタルの幼虫は雨が水面を打つ刺激で水中生活を終えて川岸の斜面に這い上がります。そして砂や土の良好な場所を見つけて土中に潜ります。湿度が適当な深さ（普通は 5 センチから 10 センチ）に潜り、頭を上にして数日でサナギの姿に変身します。

幼虫の姿からサナギの姿になるときに最後の脱皮をしますが、柔らかく細菌に寄生されやすいため多くの幼虫が細菌の犠牲になり、全体の 80% が死滅するようです。



土手を目指す上陸幼虫

農業が化学肥料を主体に使うようになったことや、家畜を飼育しなくなったために草刈が無くなり、斜面の土壌は斜面が老化したことでサナギが利用しにくくなりました。

上陸斜面を清潔にするには、次の管理が必要です。最初は草刈です。草が腐ると細菌の宿になるため、綺麗に片づけるようにします。2 番目は客土です。赤土 8・川砂 2 の混合土を斜面に散布します。毎年毎年実行すると効果が出ます。

（ホテル学校名誉校長・古田忠久）



# ホタルサポーター活動 幼虫の仕分けと水槽の清掃

11月19日(日)、ホタル学校で飼育中のゲンジボタルの幼虫の成長確認のため鳥川ホタル保存会やホタルサポーターの皆さんと洗い出しをしました。確認できた幼虫の数は以下の通りでした。



No.1	No.2	No.3	No.4	No.5
25 匹	148 匹	7 匹	133 匹	14 匹

No.2 と No.4 は例年並みの数でしたが、後は壊滅的な状態です。同じような飼育方法をしているのに、なぜこのような差ができたのでしょうか。

水槽の管理記録を見ると No.1 と No.5 は一度ひどく濁ったことがあります。また、カワニナの生育状況を見るときは No.1、No.3、No.5 は母貝の数が9月になって少なくなっていました。しかし7月、8月はどの水槽も稚貝の発生が多く、カワニナのエサ不足とも考えにくい面があります。謎は深まるばかり。

ともあれ、300匹強の幼虫が生存していますので来年の放流式まで大切に育てて行きたいと思います。生き物を飼育するのは、なかなか難しいものです。

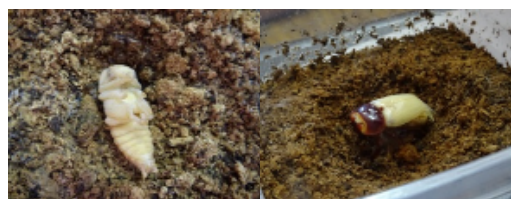
## クワガタムシが羽化！

昨年よりホタル学校の飼育室で飼育していたノコギリクワガタ。成長が遅く、成虫になるのに最低2年はかかるだろうと思っていました。

ところが、9月になってから21匹中5匹を残して次々と蛹になり羽化しました。もう秋なのに大丈夫かと心配になりますが、どうやらこのまま冬眠して来年の夏に野外活動を始めようです。

まだ幼虫の個体は、エサの菌床が不足したためエサ替えが出来なかった個体です。

今年は菌床が確保してありますのでエサをたっぷり与え、もうしばらく飼育していきます。



蛹(メス)

羽化(メス)



成虫(メス)

成虫(オス)

## 校庭のトヨトミナシの実がなりました

ホタル学校から南へ歩くこと約1km、新東名高速道路の高架の脇にトヨトミナシの木が立っています。岡崎市の天然記念物に指定されている梨の原種一種で、野生の木は世界中にこの1本しかないという貴重な木です。

実はホタル学校の校庭にはこの木から種をとったトヨトミナシの木が植えられています。平成22年、前身となる鳥川小学校が閉校になった際に記念植樹されたものですが、今では樹高4mほどに育っています。

9月に入るとこの木にピンポン玉のような実が生りました。生り年と不作の年がありますが、今年は豊作で数百個の実が枝にびっしりとつきました。試しに一つかじってみました。渋くてとても食べられたものではありません。しかし「続・とっかわの里(片岡禮子・著)」によると、食料の貧しい時代は熟して柔らかくなった実を子どもたちがおやつ代わりに食べたとのこと。何百年も集落の移り変わりを見守ってきたトヨトミナシの木。鳥川にお越しの際はぜひ訪れてみてください。



枝が垂れそうなほどのトヨトミナシの実